



世界遺産

「紀伊山地の霊場と参詣道」

—熊野を学び歩く—

和歌山県世界遺産登録推進熊野地域協議会

ごあいさつ

我々のふるさとの誇りである熊野三山とそこに至る参詣道が、平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、世界遺産に登録されました。

しかし、熊野三山信仰を理解することは、なかなか難しいことですし、熊野参詣道も広範囲なため、これを学び体験することは容易ではありません。

このたび、そうした皆様の要望に少しでもこたえられるよう、メインルートである中辺路ルートを中心とした当協議会で、主に地元の人々に役立つことを願って、できるだけ平易に解説した啓発用の小冊子を作成しました。

世界遺産とは何か、熊野三山と参詣道の概要、中辺路ルートの案内、見どころなどをわかりやすくまとめたつもりです。また、世界遺産を後世に伝えていただくための心がまえも載せています。

この小冊子を通じて、ふるさとの世界遺産の理解と愛着、責任感がより高まることを願っております。

平成17年3月

和歌山県世界遺産登録推進熊野地域協議会

目次

世界遺産とは？	1	中辺路ルートで熊野三山を巡る	7
地球上に広がる世界遺産	1	熊野詣の道	
世界遺産の種類	2	中辺路／滝尻王子～熊野本宮大社	8
日本の世界遺産	3	新宮から那智山へ／熊野速玉大社～熊野那智大社	10
紀伊山地の霊場と参詣道	4	熊野川／本宮～新宮	10
霊場 熊野三山	5	雲取越／大雲取越・小雲取越	12
熊野参詣道	6	世界遺産を守っていくために	12

登場人物

山伏



八咫鳥



熊野比丘尼



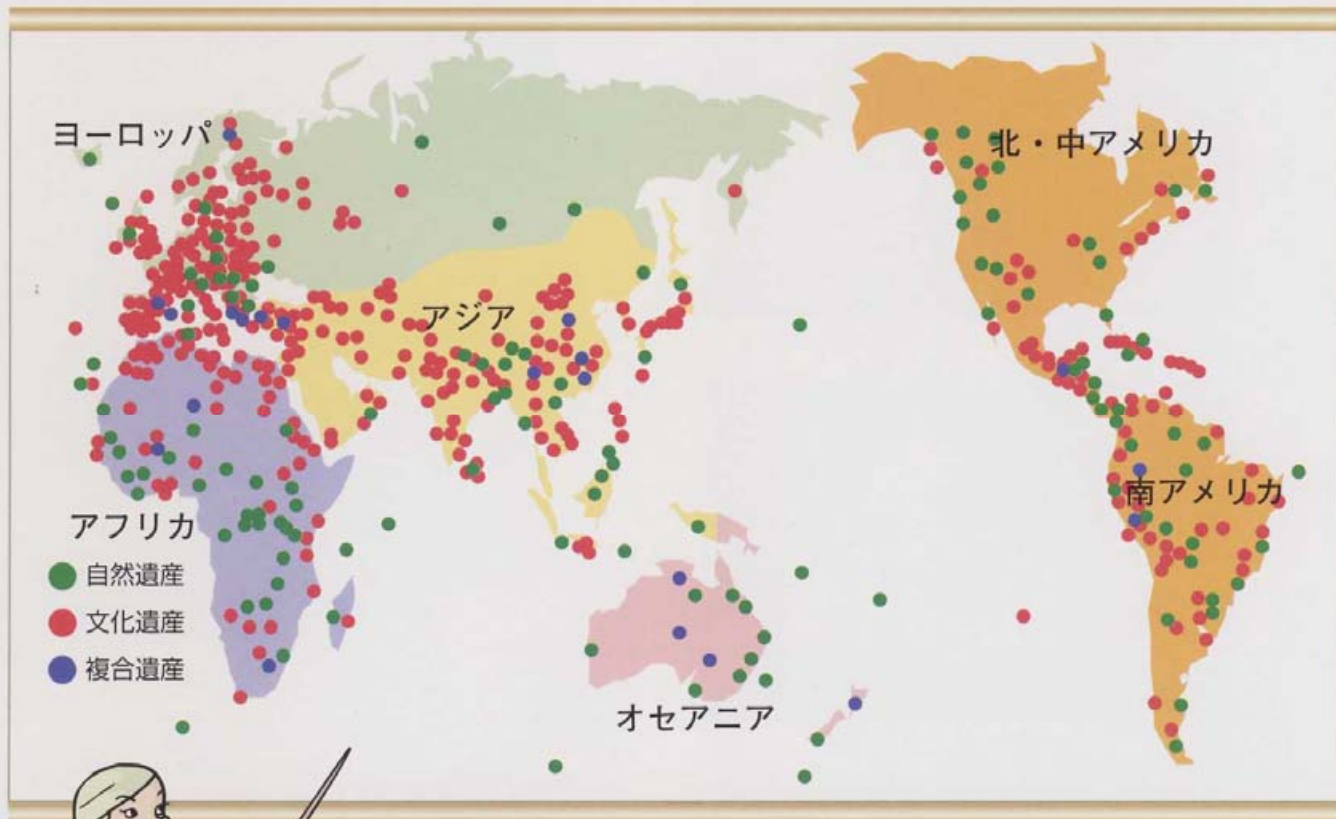
世界遺産とは？



世界遺産とは昔から引きつがれてきた地球上のすばらしい自然や文化財など、世界の人々の宝物のことをいうんじゃ。

これらは未来の人々に大切に引きついでいかなければならないんじゃよ。

地球上に広がる世界遺産



世界中には
どれくらいの数の
世界遺産があるか
地図で示して
みましょう！

ぜんぶあわせると
788件*!
たくさんあるんだね



*平成17年3月現在



世界遺産の種類

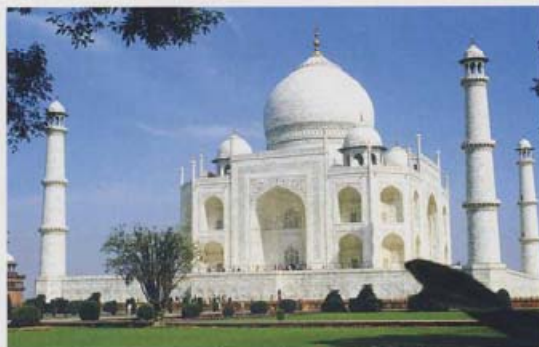
世界遺産には滝や溪谷などの「自然遺産」と…



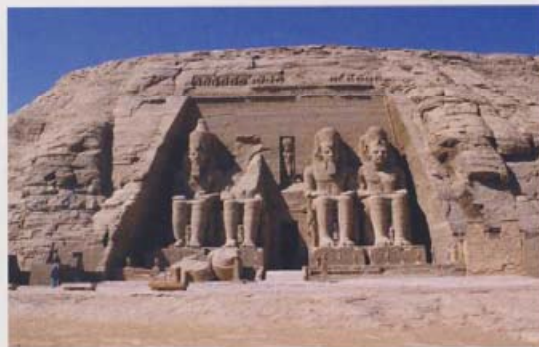
イグアスの滝(アルゼンチン)【自然遺産】



ハルシュタット湖(オーストリア)【文化遺産】



タージ・マハル(インド)【文化遺産】



アブ・シンベル神殿(エジプト)【文化遺産】



グランド・キャニオン(アメリカ)【自然遺産】



カッパドキア(トルコ)【複合遺産】

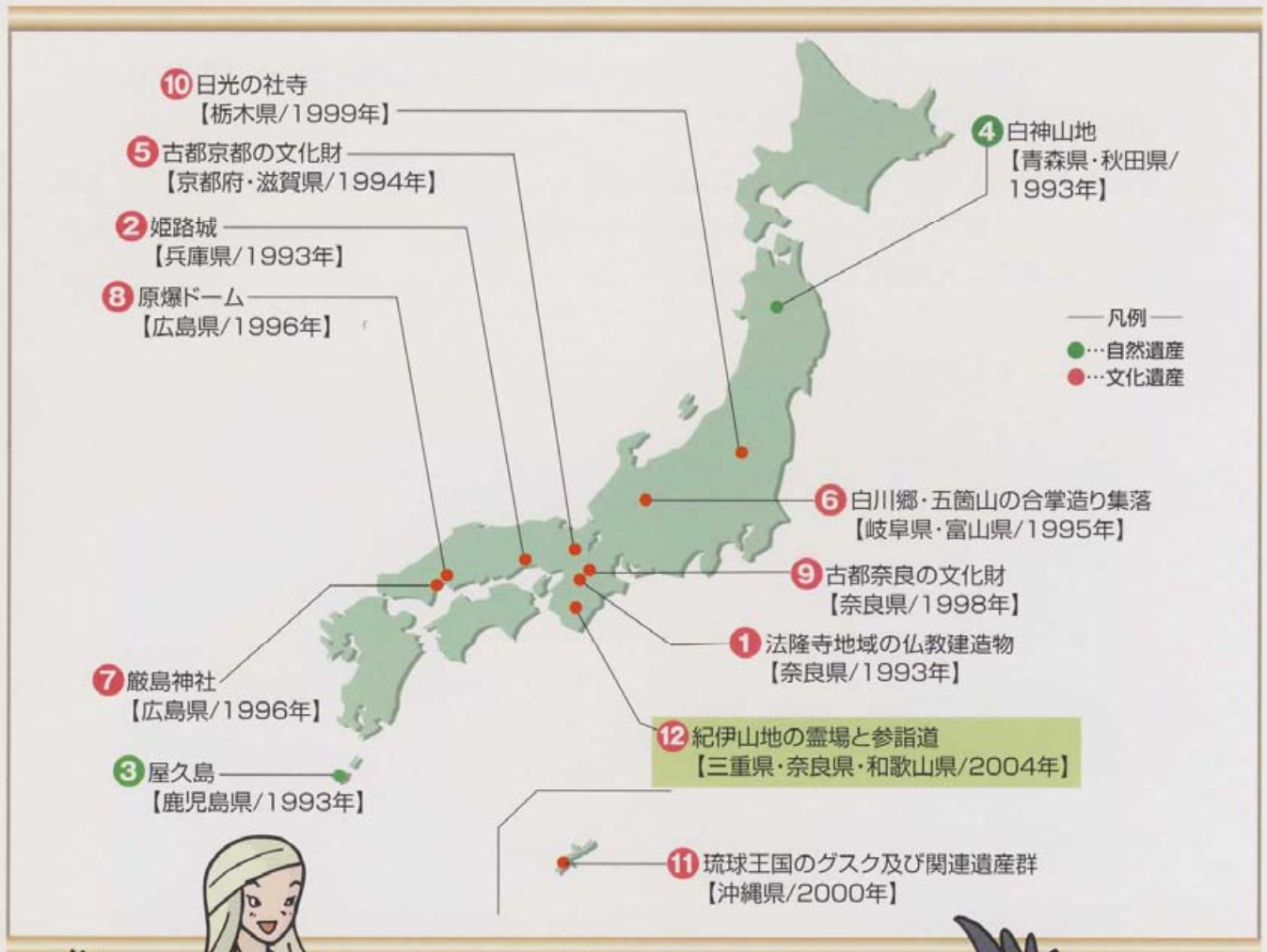
お城や神殿・寺院、街並みなどの建築物は「文化遺産」になるんじゃ。それから「自然遺産」と「文化遺産」の両方がある「複合遺産」というものもあるんじゃよ!





日本の世界遺産

国内では、これまでに自然遺産が2件、文化遺産が9件登録されていたんだが、平成16年7月に、わたしたちの地域を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、日本で12番目の世界遺産として登録されたんじゃよ。



紀伊山地の霊場と参詣道

紀伊山地には、たくさんの方がお参りに来る、熊野三山、高野山、吉野・大峯とよばれる日本を代表する霊場があるのよ。いずれも都の南に位置していて、昔から人々に心のやすらぎを与える大事な場所として尊ばれてきたのね。

そこには、自然の営みを神様の支配するものとしておそれ、敬って祀った神道、インドから伝わった仏様のありがたい教えを説く仏教、山野で神仏にふれようと修行を重ねた修験道などが息づいてきたの。そして、日本の宗教文化の発展と交流のうえで、大変重要な聖地になってきたってわけね。

この三つの霊場を結ぶお参りのための古くからの道（参詣道）が、紀伊半島に広くよく残っていて、歴史を感じさせてくれるのね。

豊かな自然にいだかれた三つの山岳霊場と、そこに至る参詣の道は、自然と人間が長年をかけて育ててきた意味のある風景（文化的景観）をつくり出していて、それが世界的にも認められたということなのよ。



霊場 熊野三山

熊野三山とは、現在の熊野本宮大社（本宮町）、熊野速玉大社（新宮市）、熊野那智大社・那智山青岸渡寺（那智勝浦町）の三社一寺の総称なんだよ。いずれも熊野川や大きな岩・滝などに神が宿ると考えられる自然への思いがもとで、別々の起源をもっているんだ。

本宮の神様は家津御子大神。食べ物の神様らしい。新宮は速玉大神というように水玉の生命力。那智は物ごとを産みだす夫須美大神とされているんだ。

平安時代から、神も仏もいっしょに祀っていたんで、神の本体（本地仏）は仏と考え、神はその権りの姿で現れたもの（権現）とされたんだ。本宮は阿弥陀如来、新宮は薬師如来、那智は千手観音が本地仏とされたんだ。熊野は仏の理想世界と考えられたんだね。

熊野三山の各社は、ともにこの「熊野三所権現」や、それ以外の神々を互いに祀りあい、「熊野十二所権現」として、信仰上の連携が行われたんだ。それで、三山を巡り参る習慣も生まれたんだね。

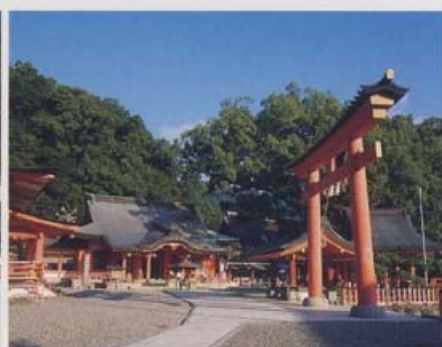
熊野三山は神仏をともに祀り、修験者が集まる修行場となり、「日本第一」霊験あらたかな所として発展し、中世最大の心の救いの霊場となったんだよ。



熊野本宮大社



熊野速玉大社



熊野那智大社



青岸渡寺



那智大滝



那智原始林



補陀洛山寺

熊野参詣道

紀伊山地の三霊場を結ぶ参詣道には、いくつかのルートがあるが、高野山へ登る町石道をのぞき、ほかはすべて熊野詣の道と言えるんじゃ。

もともと地元の生活道だったのが、よそから多くの人々が熊野三山へお参りするのに使ったため、熊野参詣道としてつながったんじゃ。昔の石畳や石仏、当時の記録が残る歴史の道なんじゃ。

今の和歌山県を通る道は、紀伊路とよばれ、中辺路・大辺路・小辺路に分けられる。中辺路は田辺から山中を通り熊野三山に至る道で、色々な人が通った中世のメインルートじゃ。

大辺路は田辺から串本を廻るルートで、江戸時代の記録しかないが、海の風景が美しいので、画家・歌人などがよく利用したそうじゃ。小辺路は高野山から本宮に向かう道で、戦国時代から使われたらしい。距離は短いけど、1000m級の峠が4つもあり、かなりきびしいぞ。大阪商人もよく使ったそうじゃ。

三重県を通る道は伊勢路とよばれ、平安時代から使われたんじゃ。中世後期から主に西国巡礼の人たちがよく利用した道で、石畳がいたる所に残っておる。

大峯奥駈道は、本宮と吉野を結ぶわしら山伏の修行の道で、平安時代から使われた。結果的に熊野に詣でているので、大きくは熊野参詣道と考えることができるんじゃ。



滝尻王子（中辺路町）



円座石（熊野川町）

中辺路ルートで熊野三山を巡る

古代から、天皇を退いた上皇や貴族らが、専ら通ったのが中辺路ルート。熊野詣のメインルート、公式ルートといえるわね。

京都から淀川を舟で下り、摂津国(大阪)に上陸し、和泉国を経て、紀伊国(和歌山)に入ったの。そこから海辺沿いに南下し、田辺から東へ進んで、中辺路の山中を通り本宮にたどりついたってわけ。

この道沿いには、王子という小さな社がたくさん祀られ、後には「熊野九十九王子」とよばれたの。熊野の神様の分身・子供(童子・王子)という意味で、そこにお参りをしたり、色々な儀式・芸能などをしながら熊野三山をめざしたのよ。

田辺から岩田川(富田川)をさかのぼってまずたどりつくのが滝尻王子。熊野の神域の入口といったところね。近露王子や岩神王子などを経て発心門王子へ。この王子はまさに仏の心を発こす本宮の玄関口。そして、大斎原にあった本宮の権現にお参りしたのよ。大日越で湯の峰温泉に行く人もいたそうよ。



本宮から新宮へは半日かけて熊野川を小舟で下ったの。新宮の川原に舟を横付けし、新宮権現にお参りしたあと、阿須賀王子を経て、海辺を通り、浜の宮王子から那智川をさかのぼり、那智山にお参りしたのよ。

古代・中世までは、ほとんどがもと来た道を引き返したの。往復で700kmあまり、1ヵ月近くかけ、身を清めながらの苦行の旅だったようね。



熊野三山を巡る旅は、山中を歩き、川を下り、海沿いを行き、その中で生まれかわっていく旅だったのよ。



熊野詣の道 中辺路

滝尻王子 ▶ 熊野本宮大社



滝 尻王子は熊野御山の神域のはじまりです。ここからの急坂の途中には藤原秀衡ゆかりの「乳岩」や「胎内くり」があり、これらは熊野の神々（自然）の霊力を語るものとして、信仰の山の象徴といえます。高原の里から山中深く分け入り、大坂本王子を過ぎて熊野古道のシンボルである箸折峠の牛馬童子の石像へと続きます。さらに、准五体王子で有名な近露王子、一方杉や秀衡桜の伝説が残る継桜王子を経て小広王子へと向かいます。



熊野詣の道

新宮から那智山へ

熊野速玉大社 ▶ 熊野那智大社



紀宝町



熊野詣の道

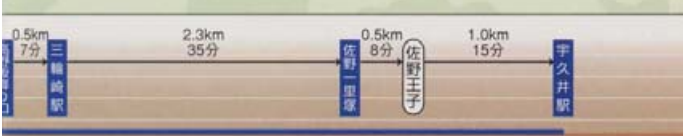
熊野川

本宮 ▶ 新宮

紀伊山地の北部に源流を發し、南流して熊野灘に注ぐ流域面積2,360km²、全長183kmの大河です。中流域に熊野本宮大社、下流の河口部に熊野速玉大社が鎮座しています。中辺路ルートで熊野三山を参詣する場合には、行き帰りとも熊野川の舟運を利用することが多く、「川の熊野古

道」として位置付けられます。両岸には山がせまり、点在する奇岩・怪石は、すでに12世紀には「熊野権現の持ち物」と考えられ、様々な伝承が語られたようです。また後には、形の特徴などに応じた個性あふれる名前で呼ばれるようになり、熊野を代表する「文化的景観」の一つに数えられています。





熊野詣の道 雲取越

大雲取越・小雲取越



世界遺産を守っていくために…



世界遺産条約第4条には「締結国は、自国の領域内に存在する世界遺産を保護し、保存し、整備し及び将来の世代へ伝えることが第一義的に自国に課せられた義務であることを認識する…」とあるんだ。

もっとわかりやすい言葉で言いかえると、熊野三山や熊野参詣道などは、世界の人々の宝物であり、私たちはこれらの宝物を大切に守り、未来へ引き継いでいくという大きな役目を、世界の人々に対して負っているということなんだ。

「紀伊山地の霊場と参詣道」は三県にまたがる広い範囲の世界遺産となるので、守っていくといっても大変なことだよ。では、具体的にはどのように保存していけばいいんだろう？

具体的な例をあげると…

- ◆ 霊場や参詣道の近く（バッファゾーン）に住んでいる人は、家を建て替えるときに、自然と調和した屋根の形や壁の色に配慮することが大切だね。建て替えや増改築は当然できるが、市役所や町役場への手続きをしてね。
- ◆ 参詣道などの周辺（バッファゾーン）で林業を営んでいる人も、その地域の特性に合った林業を続けていくことが大切だね。また、各地域で森のあり方についてみんなで考えていくことも重要なんだね。

「紀伊山地の霊場」と「参詣道」、また、その周辺を含めた景観を損なわないようにしていきたいものだね。

那 智山からは大雲取越・小雲取越の古道を巡って熊野本宮へと向かいます。大雲取越は文字通り、雲をつかむような中辺路随一の難所を越える道。途中、舟見峠・越前峠を越え、円座石を過ぎて熊野川町小口へ下ります。小雲取越は、小口のすぐ先にある小和瀬から本宮町請川へ続く古道です。中程にある「百間ぐら」は、山深い紀伊半島の果てのない峰々を眺望できる名所。そこから下って熊野川の絶景を望めば程なく請川に到着します。



世界遺産の範囲だけでなく、それぞれの地域が世界に誇れる素晴らしい景観を保つこと、そのためには、この熊野の神々を生んだ、素晴らしい山や森などの自然全体を守っていくことが一番大切なことだと思ふんだ。

皆さんも家庭や学校、職場などで話し合ってみよう。



この条例は
和歌山県だけに
あるのよ



世界遺産を守り、
活かしていくために
つくったんじゃ。

和歌山県世界遺産条例

(抜粋)

目的

第1条 この条例は、世界遺産の保存及び適切な活用について、基本理念を定め、並びに県及び県民等が担う役割を明らかにするとともに、県の基本的施策に関して必要な事項を定めることにより、世界遺産の価値を将来の世代へ確実に引き継ぎ、もって世界の人々の心の豊かさの向上に寄与することを目的とします。

基本理念

第3条 世界遺産は、人類のかけがえのない多様な価値を有する財産として守られ、適切に活用されつつ、将来の世代に良好な状態で引き継がれていかなければなりません。

和歌山県世界遺産の日及び和歌山県世界遺産週間

第4条 県は、県民等が世界遺産についての理解と関心を深めるため、和歌山県世界遺産の日及び和歌山県世界遺産週間を設けます。

2 和歌山県世界遺産の日は、7月7日とします。

3 和歌山県世界遺産週間は、7月1日から7月7日までとします。

県民等の役割

第6条 県民及び事業者は、基本理念を十分に踏まえ、それぞれ自らの世界遺産という思いを持ちながら、世界遺産を率先して保存し、及び適切に活用するように努めるものとします。

2 県民等は、世界遺産を訪れる場合は、ルールを守るとともに、世界遺産の魅力と価値を多くの人々に伝えるように努めるものとします。

◆発行／平成17年3月
和歌山県世界遺産登録推進熊野地域協議会

〒647-8555 和歌山県新宮市春日1番1号
TEL 0735-23-3369



紀伊山地の霊場と参詣道